

# 小学校第六学年 国語 「説明文を読もう」

## ○ 正答例

一 ア ピンタ島でピンタゾウガメが見つかった。

イ ほとんどの地域でトキを見かけなくなった。

ウ 私たちは、日本の空にトキがもどってきたとしても、トキを失った歴史の悲しみを忘れてはならない。(四十六字)

二 私たち人間が、動物をほろぼしたこと。

## ○ この問題で身につけてほしい力

○ 要旨をとらえながら文章を読む力

○ 文章を比べて読み、共通する内容を読み取る力

## ○ 考え方

一 アとイは、段落の要点をつかむ力や、要約する力を使って考えます。

【メモ】を見ると、アは「一九七一年のことだと分かります。」

【説明文A】の対応する段落（「ところが、一九七一年になって…」）を読んで下さい。

「突然、ピンタゾウガメが発見されたのである。」とあります。

ピンタゾウガメがほろびるまでの道すじをまとめるのですから、この文を使って、考えるとよいでしょう。

イは、「一九二五年のことです。」【説明文B】の対応する段落

（「大正時代末の一九二五年には…」）を読んで下さい。

ここは一文だけです。この文から考えましょう。

ウは、【説明文B】の要旨です。

この説明文の場合、筆者の考えの中心は、最後の段落に書いてあります。

筆者の主張はどこにかかれていますでしょうか。

最後の文には「私たちは」と書かれています。それまで見られなかった書き方です。また、語尾には「ならないのである。」と書かれています。これは、強い意思を表しています。

ですから、この最後の文を中心に考えればよいのです。

また、【説明文A】の要旨と比べることから考えてもよいでしょう。

私たちは、過去のあやまちを重く受け止め、二度とくり返さないように決意を固めなくてはならない。

この要旨からは、筆者が強い意志を示していることが分かります。【説明文B】の要旨をまとめる場合、参考にしてもいいでしょう。

要旨をまとめるときには、求められている量や、表現の仕方に合わせて書くことが大切になります。

さまざまなたとめ方を経験してみてください。

二 【説明文A】と【説明文B】を比べたとき、次のようなことがわかります。

【説明文A】	人間がピンタゾウガメを事実上ほろぼしたこと。	【説明文B】	人間が日本のトキをほろぼしたこと。
--------	------------------------	--------	-------------------

両方の説明文とも、種類の動物を人間がほろぼすまでの流れを書いています

ですから、人間が動物を追いこんでほろぼしたことが共通する内容、ということになります。